

シンポジウム「発掘が語る中世の松本―武士の城・館と人びとの信仰―」

報告1 殿村遺跡と虚空蔵山城の発掘―虚空蔵山麓の歴史的景観をさぐる―

平成26年3月16日

松本市教育委員会 竹原 学

1 殿村遺跡の発掘調査

(1) 会田氏館跡推定地と殿村遺跡

会田氏館跡伝承地／「殿村」の地名／周辺に関連文化財（会田塚・廣田寺・長安寺・虚空蔵山城等）

(2) 15世紀にはじまる平場遺構の造成と石積

学校建設に伴う発掘から現地保存へ／虚空蔵山南西麓・岩井堂沢の谷口・会田川右岸段丘上／縄文早前期→奈良・平安の須恵器生産→13～14世紀に大規模造成を伴わない活動→15世紀に大規模造成開始・大きく4段階の拡張→16世紀後半で廃絶？／15世紀（4面～3面段階）に石積と土塁で囲まれた通路ないし池状空間／15世紀の石積＝見せる石積か？／15世紀末～16世紀（2～1面）で大規模な拡張（石積の埋め立て？）＝平場の性格変化？

(3) 平場を構成する遺構と遺物

【遺構】平場上の遺構は4～3面段階は不明瞭（建物土台・炉址・便所等）→2～1面段階は溝・石列・堀・柵による空間分割を行う／礎石建物主体の空間・掘立柱建物主体の空間・炉址が集中する空間など…／居館的な建物や空間配置はあまりうかがえない／外郭施設（土塁等）と防御的側面

【遺物】威信財少ない／在地産土師質土器(カワラケ・内耳鍋)と瀬戸産陶器(天目碗・皿類)が主体／在地産播鉢(土師質・須恵質・瓦質)と石鉢／貿易陶磁は碗・皿類主体（天目碗・青磁碗・青花皿・茶壺）／古瀬戸後期を中心に大窯1～2が少量／もたらされた高級茶道具（天目碗・茶壺・風炉・茶臼）と文具（硯）／斎串状木製品・形代

(4) 殿村遺跡の現状におけるまとめ

2 虚空蔵山城跡の発掘調査

(1) 城郭としての側面

ア 地域の象徴である独立峰・虚空蔵山に散在する城砦群

会田盆地＝嶺間地方を囲む山の中で最も象徴的存在（会田富士・1139 m）／東西1km以上、全山に削平地（山頂・南斜面主体）／山頂の峯ノ城（削平地と堀切）／中腹の秋吉城・中ノ陣城・西方の曲輪群／大きな平場を伴わない東側尾根上の削平地群／尾根続きのうつつ城（主郭・副郭・堀切）も城砦群のひとつか？／大小200以上の削平地

最も曲輪の規模が大きい中ノ陣城／文禄3年絵図に見える「城廓」は中ノ陣、「出丸」は中ノ陣西の曲輪群を指すか？／大きな削平地と尾根最上部の削平地には石積伴う／堀切・豎堀は峯ノ城・秋吉城・中ノ陣城・中ノ陣城西の曲輪群・うつつ城にあるが、「小笠原山城群」に比較すると小規模で少ない／中の陣に背面土塁・堀切／秋吉城豎堀に土塁・石塁（登り石積）／秋吉城主郭前面は豎堀と連結する横堀／各グループの時間差は不明

イ 境目の城として

築城は会田氏か・時期不明→天文22年（1553）4月武田晴信「会田虚空蔵山放火」（『高白斎記』）・武田配下→同年9月長尾景虎会田虚空蔵山城を攻める（『高白斎記』）・上杉配下→再び武田支配下に復す→天正10年（1582）11月小笠原貞慶の攻撃・上杉方内通の会田氏滅亡（『岩岡家記』）・天正18年まで貞慶による改修？→廃城（時期不明）
北からの攻撃に備えた城か／花川原峠を挟んで唐鳥屋城が位置／筑摩郡の南（会田氏・武田氏・小笠原氏）・北（青柳氏・上杉氏）を分ける境目に位置する一対の城か？（天正12年「会田口は大接所」『上杉家文書』）

(2) 谷間に展開する雛壇状平場群と中ノ陣城・秋吉城

ア 水ノ手周辺平場群の発掘

秋吉城と中ノ陣城に挟まれた谷間の大規模平場群は何か？／幅50m前後・奥行8 m前後・6段の平場／全段石積を伴う／平割石積み・高さ1～2m／最上段が中心的役割か？（幅43m・奥行16m）／水ノ手＝水溜施設／新旧2面／2面に旧石積・礎石建物／遺物：在地産土師器（カワラケ・内耳鍋）、古瀬戸陶器（合子・茶壺）、貿易陶磁（青磁・白磁・青花）、硯、石臼、石鉢／15世紀後半～16世紀第1四半期主体、16世紀中～末が欠落、17世紀代の陶

器＝廃絶後の営み／1面は遺構出土遺物なく時期比定に課題／小規模な平場→長大な石積を伴う大規模な平場

イ 中ノ陣城・秋吉城との関係

『長野県町村誌』の挿図に見る景観＝水ノ手周辺平場群が中心に描かれる、「井戸」・「馬場」・「中陣」／平場群の両袖に中ノ陣・秋吉城／秋吉城の豎堀・豎土（石）塁と平場群の関係／平場群は湧水伴うガレ沢（岩場）を背にする／中ノ陣と秋吉城を結ぶガレ沢中の道／三者が一体的構造をなす

(3) 虚空蔵山城の現状におけるまとめ

3 虚空蔵山麓の歴史的景観―「会田郷往古略図」と「お祓い配り日記」に見る宗教的世界―

(1) 「会田郷往古略図」（文禄3年）と「お祓い配り日記」（天正9年）にみる会田の景観

ア 道（会田郷往古略図に見る南北東西の十字路）

南北の道と3つの峠＝東山道時代から／会田川に沿う東西の道（保福寺道＝東山道の別道）「此道ハ間道ナリ東ハ海野也小室ヘ行夫ニよ里碓井の山領を越し吾妻辺江の通路奈リ」〈絵〉／会田氏にとって重要な交通上の要衝か？

イ 会田を中心とした町・村と人々（お祓い配り日記に見る村・人）

【街道沿いの村々】「合（会）田郷」内の「小岩井庄」「飯田場（板場）」「取手（出）」＝会田御厨の一部・会田氏の拠点／お祓い配り日記に登場する地名または地名と思われる姓等（「あいた（会田）」「あら（新）町」「こゆわい（小岩井）」「糸け」「河原さ木（崎）」「宮本」「西宮」「わこ（和合）」「ほうおふち（法音寺）」「なかこし（長越）」「うへのたいら（上の平）」「めす（召）田」「れうせ・りゃうせ（両瀬）」「しばほさま（塩狭間）」「宮のこし（越）」「なか（中原）」「かな（金）井」「大あし（足）」「ふしいけ（藤池）」「ます原」「わた原」「かた（片）山」「いたは（板場）」「かちゃさいけ（鍛冶屋在家）」「かち（梶）原」以上「あいた（会田）」「あいた（会田）分」「あいた（会田）入り分」

【職人・諸職に関わる人物】「いせ（伊勢）屋宿ひこ二郎」「みそ屋三右衛門」「はんちやう（番匠）小澤殿」「同木丞殿」「同小澤右丞殿」以上「あいだ（会田）」「あいた（会田）分」

ウ 宗教施設と宗教者（お祓い配り日記に登場する寺と人）

【宗教施設】「鎮守虚空蔵尊（岩屋社）」〈絵〉・「知見寺」〈祓・絵〉・「祝（岩井）堂」〈絵〉・「人埋堂（ミユウミ堂・ユミ堂・ニゴミ堂）」〈絵〉・「むれう（無量）寺」〈祓〉・「長安寺」〈祓〉・「ふた（補陀）寺」〈祓〉・「糸け寺」〈祓〉・神明宮〈祓に鳥居のみ？・殿村の鳥居（名称不明）〈絵〉（以上会田分）、「かうさい寺」〈祓〉（会田入り分）

【宗教関係者】「先達」「ほうそうす（法蔵主）」「はんやう」「佐蔵主」〈祓〉

エ 武士（会田氏）

「會田小次郎廣政居城也本姓海野ト云フ此地ニ来り會田ト改めし者奈り」「知見寺 會田氏寺也」「小岩井庄也殿村ハ皆奈會田氏の家来の居ル屋候なり」「祝堂 會田氏施蘭地…」他以上〈絵〉

「岩下殿」「同名筑前守殿」「同名丹波守殿」「同名源田殿」「同名監物殿」以上〈祓〉その他在地武士多数

オ 宗教空間と城

虚空蔵山麓、とりわけ岩井堂沢＝会田周辺に宗教施設が集中している状況がわかる。

文禄3年絵図に山＝鎮守虚空蔵尊と城の上下関係が端的に表れている。

(2) 現在に残る宗教的景観

ア 虚空蔵山と磐座・湧水

【磐座】谷を遡るとガレ沢（輝石安山岩の転石群）に到達／尾根を登ると磐座に到達（第三紀層の砂岩露頭）／岩屋社は磐座の洞くつに構えた社／これらの上、山頂部全体に輝石安山岩の峻険な岩山（鋭く狭い稜線）がかぶさる

【湧水】うつつ清水、オゲ水、（水ノ手）などの湧水

イ 岩井堂とその周辺

ミニ虚空蔵山的様相／磐座＝第三紀層の砂岩露頭／行基伝説・弘法大師伝説あり／近世に善光寺街道沿いの観音霊場として賑わう（『善光寺道名所図会』）

ウ 社寺・墳墓

岩屋神社と長安寺＝本尊虚空蔵菩薩・古くは真言修験に関わる寺か・弘安元（1278）に会田氏が蘭溪道隆を招へいし臨濟宗寺院として中興、会田氏滅亡とともに衰退するも最近まで祈祷寺院として存続（田の神）／知見寺（後に廣田寺、永正年間会田氏中興・曹洞宗寺院に）／無量寺（弘仁8・817年空海、弘仁10年・仁科氏、天正2・1574

年仁科盛信再興・曹洞宗寺院に)／岩井堂観音と補陀寺(真言寺院)／御厨神明宮と神宮寺(天台寺院)／ニゴミ堂(近世に発掘・みゆうみ堂とも、古墳石室様の施設・中世石造物)

エ 石造物(社寺周辺、街道・峠道沿いの中世石造物、種類と傾向)

松本盆地南部＝小笠原氏の領域には中世の石造物少ないとされる。会田盆地は密度濃い＝東信濃的?／五輪塔・宝篋印塔・多宝塔・板碑／時期は室町以降が主体か?／古道沿いや寺周辺に分布する傾向／会田川を下り、明科まで分布域広がる／動いているもの・主自があやふやなものもあり。

オ その他

会田(街道と町)を囲む3方の尾根上に「旗塚」と称する円墳状の小マウンド群あり(直径3～5m・高0.5～1m)／ニゴミ堂裏尾根8基、無量寺裏尾根5基、廣田寺裏尾根6基

(3) 虚空蔵山麓の景観イメージ

4 殿村遺跡・虚空蔵山城跡の石積といわゆる「小笠原山城群」の石積

(1) 15世紀の石積技術

①殿村遺跡石積 A 西半西部を代表とするグループ(4面段階)

高さ1m未満／1段目に大型の自然石(角礫)を衝立状に立てる／その上に2～3段小振りの自然石を長手に積む(控え短い)／垂直積み／1段目築石が大小あり上端揃わず＝2、3段目の横目地は通らない／1段目に間詰め石／背面に飼い石状の小角礫／裏込め栗石なし(平場造成土で支持)／隅角部なし＝前面石積みのみ(直線石積み)

②殿村遺跡・石積 A 西半中部、石積 B2・B3 を代表とするグループ(4面～3面段階)

高さ1.2m程度／①より小振りの自然石(角礫・垂角礫)を4～6段に積む／垂直積み／天端石および上部では控えを長く小口積みとなる／①より築石のばらつきが小さくなるため①より横目地が通る／間詰め石なし／裏込め栗石なし(平場造成土で支持)／基本的に前面石積(直線石積み)・平場拡張に伴う直交部(入角)あり＝先行する前面石積に直交方向の石積を接して付け足す(算木積みにはならない)

③虚空蔵山城跡水ノ手周辺平場群・平場1の2面段階旧石積

高さ1m／部分石積／大小不揃いの角礫を乱積み／上部は小口積みに近い(控え長い)／ほぼ垂直／裏込め栗石なし・堅緻な版築土で支持／地中石積の可能性も残し再検証要

(2) 16世紀の石積技術

④虚空蔵山城跡水ノ手周辺平場群

高さ1～2m／節理を利用した平割石を平積み／長手積みが基本・天端は小口積み(控え長い)／垂直積み／1段目築石に大型の角礫用いるものあり／隅角部なし(基本的に直線石積)・末端を大型石材で止める／横目地通るが、平割石の規格にばらつき大きく、中途にも大型石材や塊状の石材用いる／背面に控え積み(仮称)伴う場合あり(艦飼い石の約も果たすか)／裏込め栗石なし・平場造成土で支持(下層に捨て石あり・上層は版築)／斜面上の構築にアゴ止め石あり／高さ1m未満の低い石積では平割石への志向希薄／旧石積は15世紀後半から16世紀第1四半期か／それ以外は16世紀第2四半期以降か(16世紀中～後葉の遺物がないため時期絞り込み困難)

⑤虚空蔵山城跡中ノ陣城主郭石積

基本的には④と同じ平割石積み／1段目および末端の大型築石・アゴ止め石未確認／隅角部ないが、隅丸に連続させて主郭3方を囲む

⑥「小笠原山城群」の石積

高さ1～3m長さ最大3m(山家城)／節理を利用した平割石を平積み／長手積みが基本・天端は小口積み(控え長い)／垂直積み／埴原城ではセットバックあり／1段目築石が大型・厚手となるものあり／隅角部なし・隅丸に連続させて曲輪を囲む／築石の規格が揃い横目地通る整然とした姿(山家城・青柳城が卓越)／背面に控え積み(仮称)伴う場合あり(青柳城・桐原城・桐原城蓮法寺跡)／裏込め栗石なし／斜面上の構築にアゴ止め石あり(埴原城)

(3) 現段階におけるまとめ



図1 殿村遺跡と虚空蔵山麓の文化財

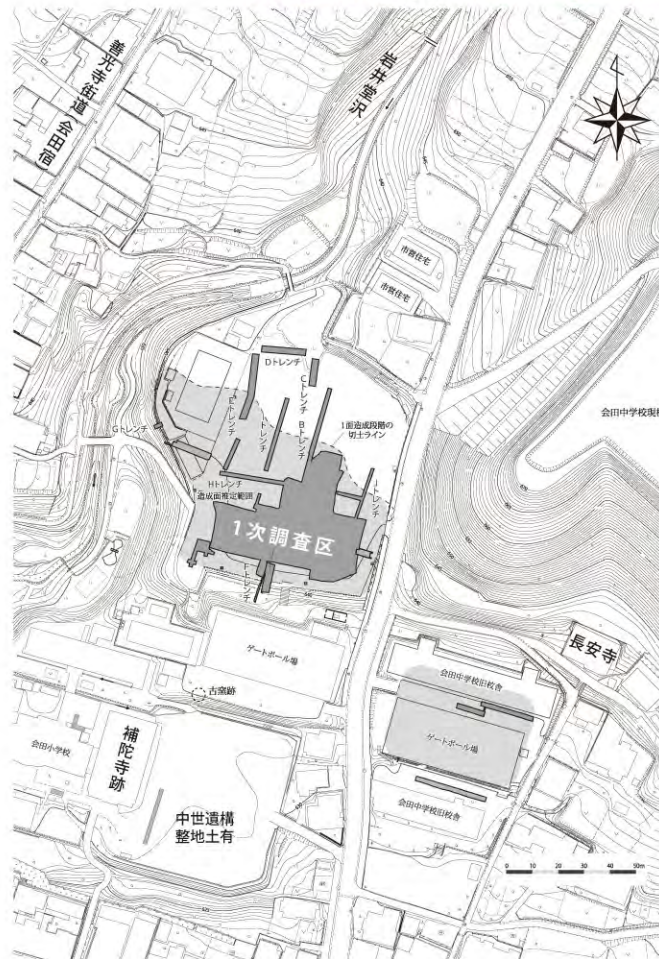


図2 殿村遺跡の周辺地形と調査区(網掛けは平場想定範囲)

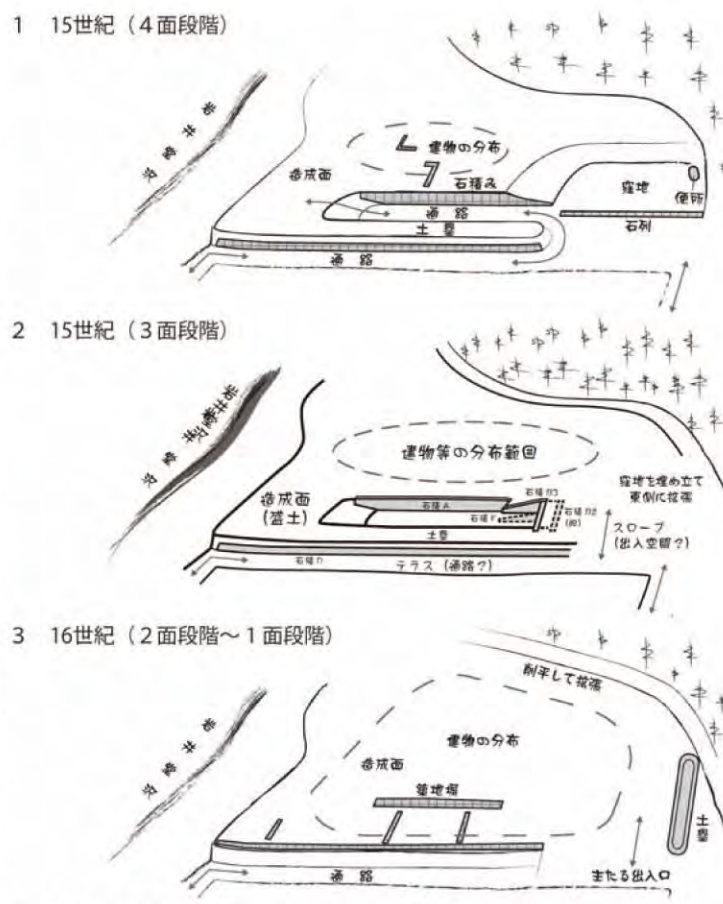


図3 中世の平場跡の移り変わり(現段階における推定図)



図4 殿村遺跡1次調査区全体図(上:3・4面、下:1面)

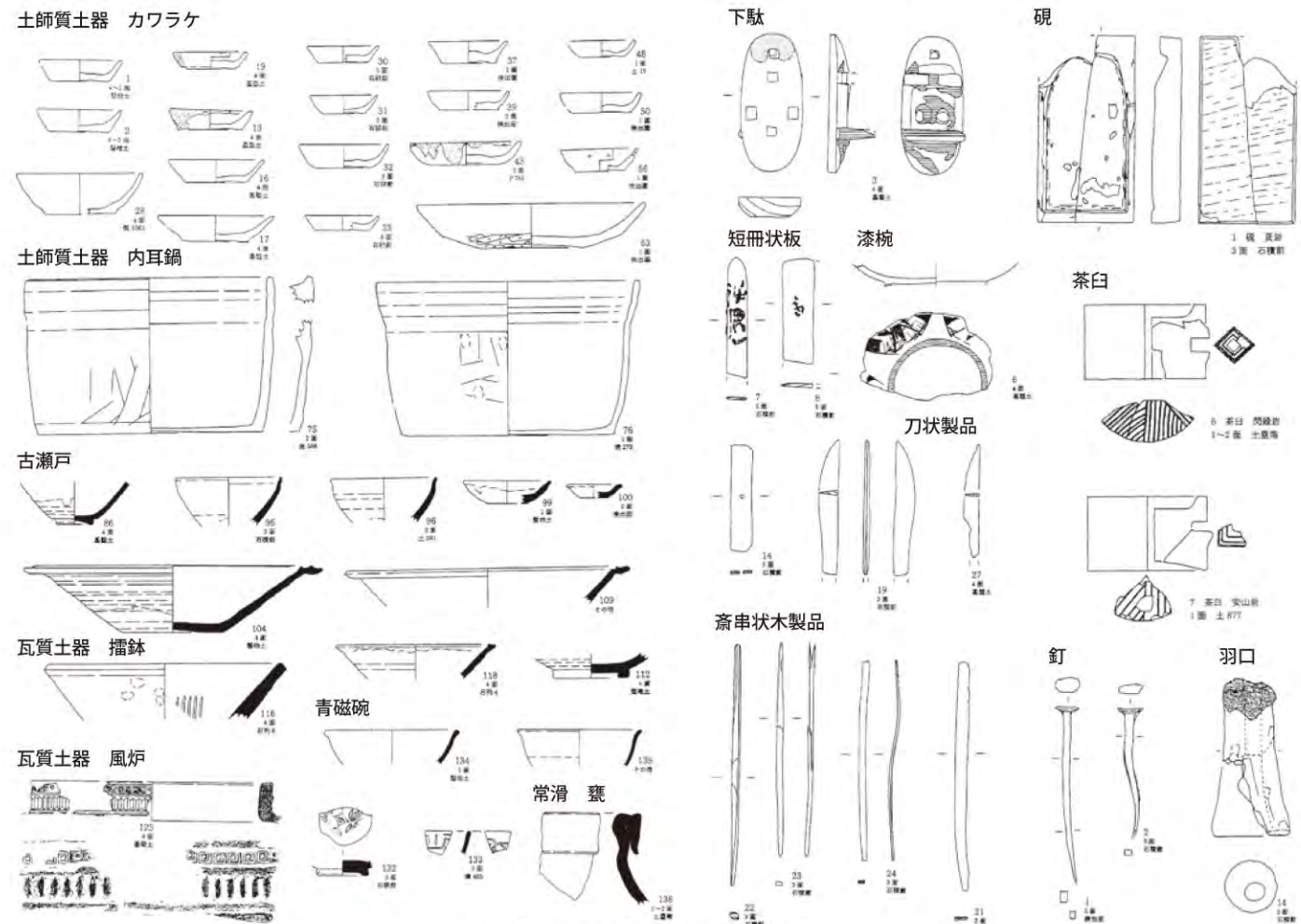


図5 殿村遺跡主要出土遺物

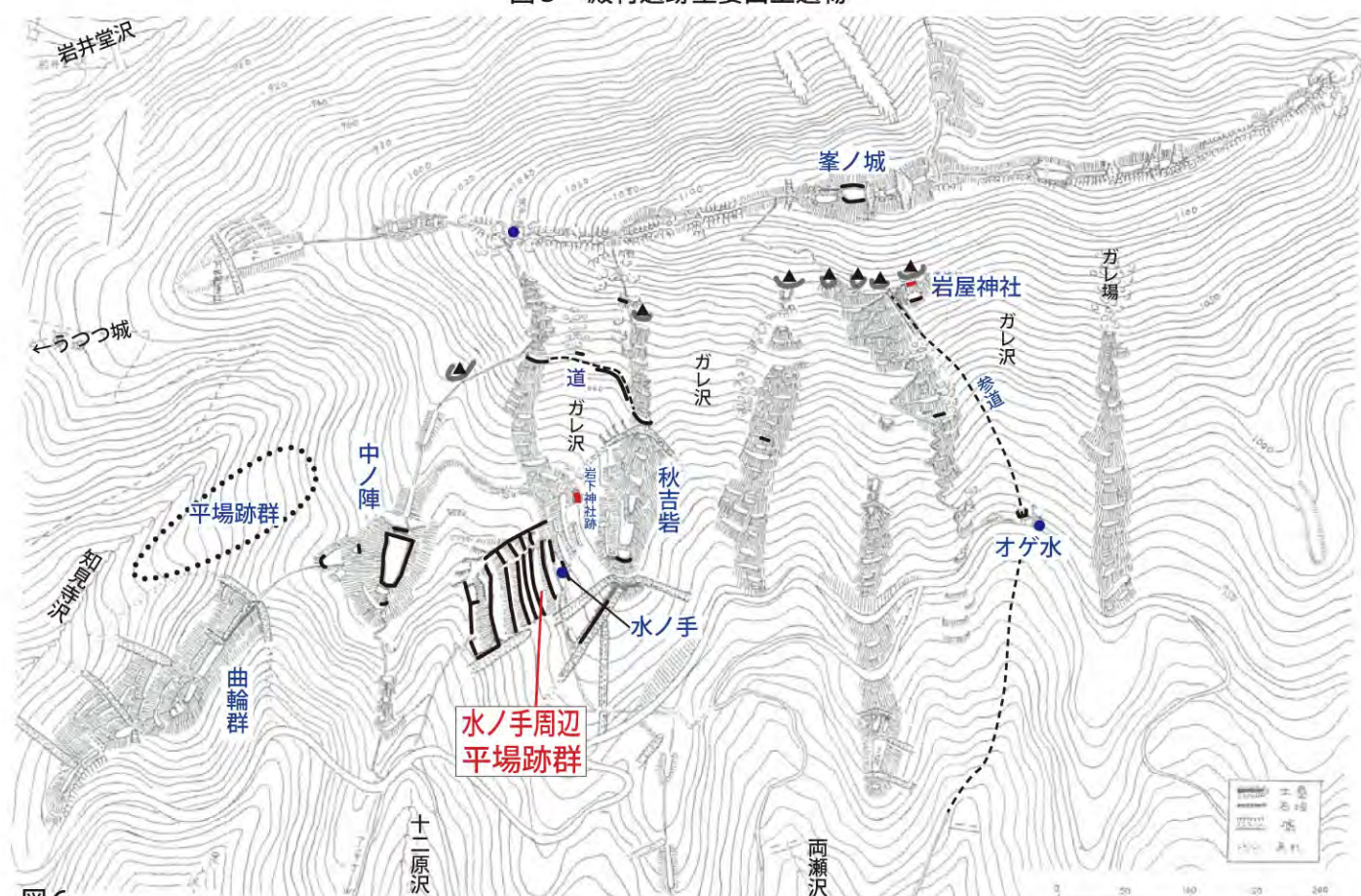
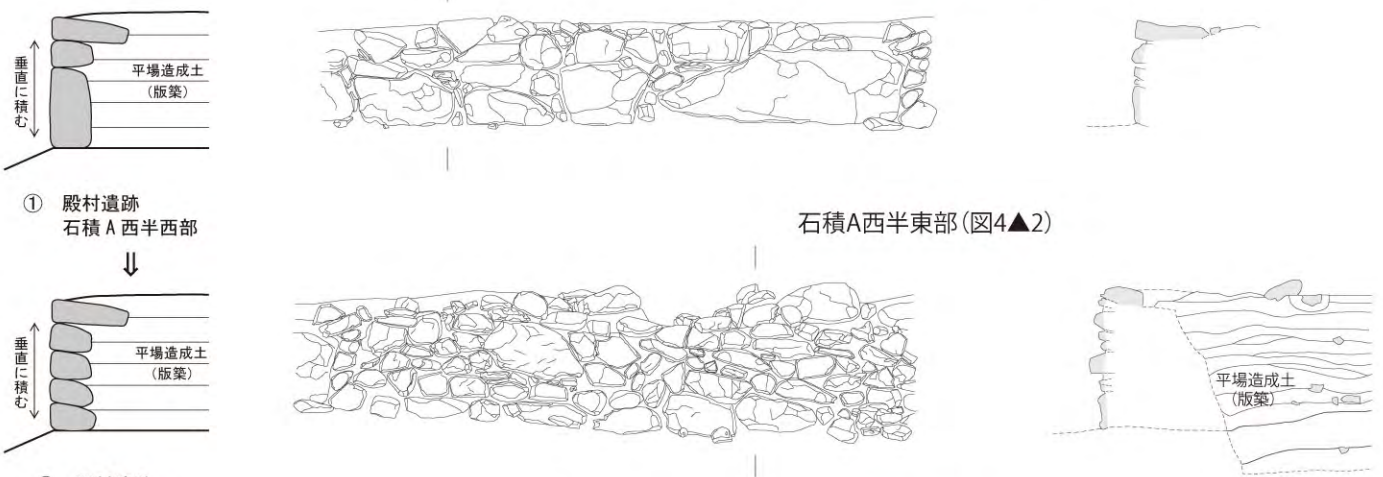


図6 虚空蔵山城跡縄張図(宮坂武男氏作図に加筆) — 石積 ▲ 磐座状の砂岩露頭

石積A西半西部(図4▲1)



① 殿村遺跡
石積 A 西半西部

⇓

② 殿村遺跡
石積 B2・B3

図25 殿村遺跡の石積断面模式図

石積A西半東部(図4▲2)

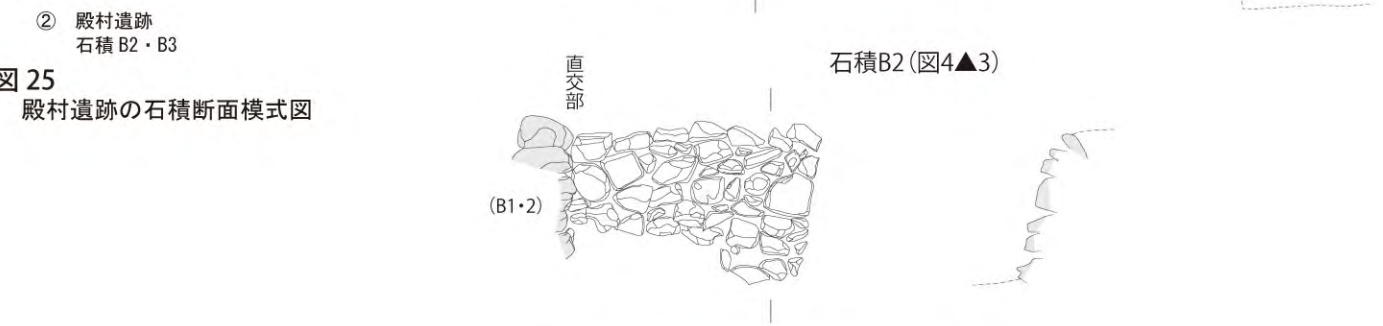
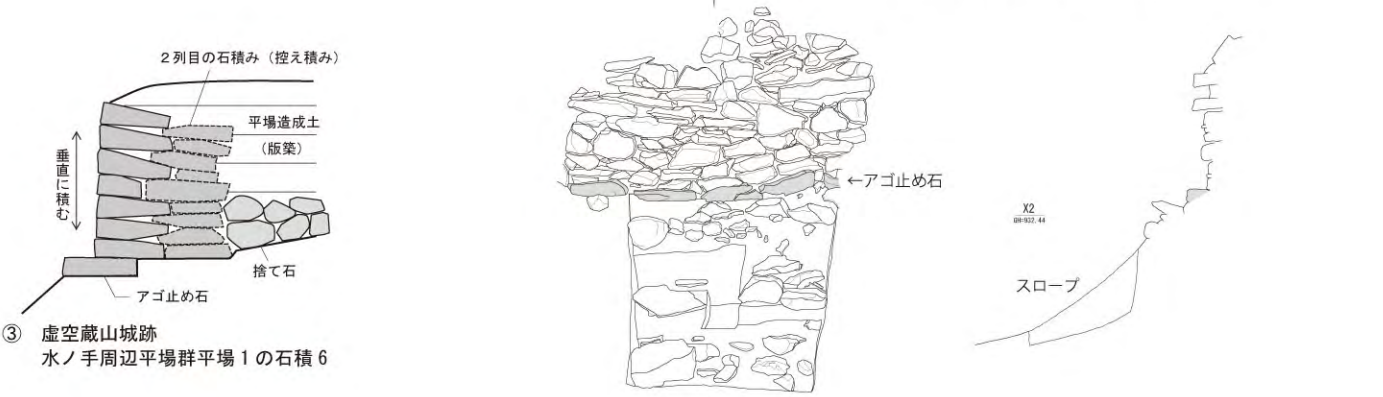


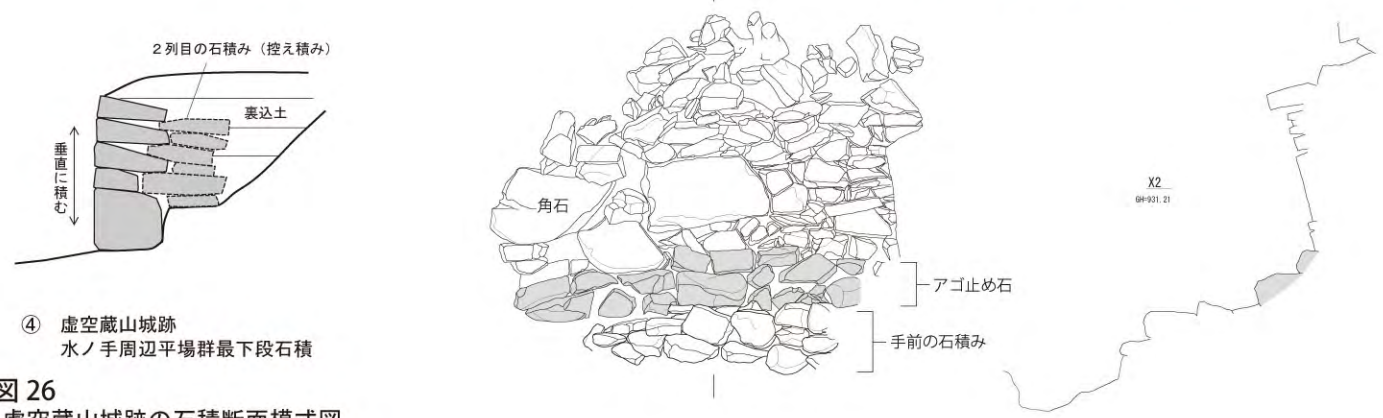
図23 殿村遺跡の石積(4面) (1/60)

平場1・石積6(中部・図11▲2)



③ 虚空蔵山城跡
水ノ手周辺平場群平場1の石積6

平場1・石積6(西端部・図11▲1)



④ 虚空蔵山城跡
水ノ手周辺平場群最下段石積

図26 虚空蔵山城跡の石積断面模式図

図24 虚空蔵山城跡 水ノ手周辺平場群の石積 (1/60)



図27 桐原城主郭の石積



図28 桐原城帯郭の石積(控え積みか)



図29 桐原城蓮法寺跡の石積



図29 同左 控え積み



図30 山家城主郭の石積



図31 青柳城主郭の石積と控え積み



図32 埴原城主郭の石積(セットバック)



図33 埴原城主郭の石積とアゴ止め石